

ぐんまシルクロード 5

半信半疑

「美しい繭と蚕で『繭美蚕』——。シルクニット製造販売「門倉メリヤス」（前橋市日吉町）の社長、門倉重行さん(59)は、前橋国際大(同市小屋原町)の女子学生らが名付け親の絹製品のブランドを展開する。学生が授業の一環で始めた仮想企業の活動が、現実社会で実を結び始めた。

◇ 「最初は何、どこまでやる気があるのか、半信半疑だったんですよ」。門倉さん



「繭美蚕」ブランドの商品を検討する(左から)小沼さん、門倉さん、青木さん

大学生の発想商品化

んは振り返る。同大国際社会学部4年、青木純さん(21)、同小沼恵さん(22)らのグループから突然、「支援企業になって下さい」と、電話があった。美蚕」を「設立」。毎年秋

【蚕太】本県独自の6種の蚕の1つ。県蚕業試験場と門倉メリヤスが共同で研究開発した。糸の太さが4d(デニール)以上(1dは長さ9000年で1gとなる糸の太さ)と、普通の品種より5~6割ほど太いのが特徴。生地にコシやシャリ感が出るため、ニット製品に適しているとされる。

ネット商店からブランド

に開催される全国規模の発表会「バーチャルカンパニートレードフェア」に向け、商品開発に力を貸してくれる企業を探していた。

「難しい説明はともかく、群馬の絹に着目してくれたことがうれしかった。若い世代に関心を持ってもらわないと、業界の衰退に歯止めがかからない」と、支援を引き受けた。

06年の同フェアでも入賞を果たした青木さんと小沼さんは、今春の卒業後は絹産業とは直接かかわりのない道に進む。それでも、2人は「繭美蚕にかかわったことで、群馬と絹に愛着を持った。いろんな機会に世界に誇れる絹産業の素晴らしさを伝えたい」と話す。

「繭を使った小物を作りたい」という学生の要望をできるだけ尊重。何度も打ち合わせを繰り返して出来たのは、県産独自種の蚕「蚕太」を使ったコースターやグラスカバーなど。斬新な発想やデザインだけでなく、蚕太ならではの特性も評価され、青木さんらは05年の同フェアで最優秀賞(専門学校・大学の部)を受賞した。

最優秀賞受賞

「私もね、発想が豊かひたむきな学生と一緒に仕事をし、大いに刺激を受けたんですよ」。門倉さんは、彼女たちの後輩学生たちとともに、ビジネスとして動き始めた繭美蚕の展開に知恵を絞る。